

12月10日
帰国生日本入試

2023年度
入学試験問題

国語

【注意事項】

1. 試験時間は50分です。
2. 問題は1ページから13ページまであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
4. 問題用紙と解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 設問に字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

受験 番号						氏名	
----------	--	--	--	--	--	----	--

宝仙学園中学校共学部 理数インター

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学校では、クラスの友だち同士で小グループを作って、休み時間などはいっしょに活動するということがよく見受けられます。その時よくありがちなのが、親しいはずなのに、その場にいらない友だちの悪口を言うということです。

これは今に始まったことではありません。社会学の考え方で、スケープゴートの理論というものがあります。

「スケープゴート」というのは、そもそもは旧約聖書に出てくる、贖罪用の山羊のことです。旧約聖書の時代には、人間の罪を山羊に背負わせて荒地に放す、という宗教的な儀式がありました。つまり生贄ですね。そこから転じて、人々の憎悪や不安、猜疑心などを、一つの対象（個人や集団）に転嫁して、矛先をそちらにそらせてしまうことを、「○○をスケープゴートにする」などと言います。

さて、親しい友だちであるはずなのに、なぜこんなことをするのでしょうか。

これは、第三者（「ここにいない、私とあなたそれ以外の人のこと」を排除することによって、その場の「あなたと私の親しさを確認し合う」ということなのです。A子さんとB子さんがいたとして、そこにいないC子さんの悪口を言って盛り上がることによって、A子さんとB子さんは、その場の親しさを再確認しているわけです。こういうことは、よくあることなのです。

けれど、こうした振舞いは、この二人に新たな不安を引き起こしがちなのです。その不安というのは、今度はいつ自分が排除される側にまわるかわからないということです。この結果またまた不安が増幅して、ますます固まるわけです。

② 私も、こんな光景を見たことがあります。

息子や娘がまだ幼稚園に通っているころ、私はよく送り迎えをしていました。その時、いつもお母さん方が、ひとかたまりに群れてお話をしていました。子どもたちはとくに教室の中に入ってしまったているのに、お母さん方はほとんど帰らず、多くの人がその場に残って延々とおしゃべりを続けているのです。お父さん方なら、お役目が済めば「じゃ、また」とすぐに帰りそうなものです。

私の妻にその話をすると「あれはその場にいらないとなく不安になるからかな。本当は、毎日毎日十分もお話なんかしたくない人だっているでしょうに、その場にいらないと何を言われるかわからないからなのかしら」と言うのです。

さらに、みんなが知っていて自分だけが知らないという状態を極端に恐れる、ということもあるようです。たいした内容の情報でなくても、情報を共有していないと、そのことだけで排除されるきっかけにつながりかねないからです。

このように、ある種のグループでは、いつも関係を密にしていないと、いつ排除されるかわからない不安がつきまといまいます。不安になるから、ますます固まって一緒にいる。

学校の先生の立場から見ると、「あの子たちはいつも一緒にいて仲がいいんだな」なんて思える子どもたちの集団でも、よくよく話を聞いたり、様

子をうかがってみると、実は非常に緊張きんちやうした状態で、いつも一緒にいるという場合があります。もちろん別に仲が悪いわけではなくて、一緒にいて楽しいこともあるのだけれども、いつのまにか「そこにいないと不安になるから、陰口かげぐちをたたかれるのが嫌いやだから一緒にいる」という状態におちいつている可能性もあるのです。

その発展形といえるかもしれないのですが、最近私③がちよつと気になっているのが「携帯メールけいたいメール」を介かしたコミュニケーションです。とりたてて用事もないのに、しょつちゅうメールのやりとりをしている人がいますね。

メールを送ったら、どれぐらいすばやく「即レス」してくれるかで、相手の友情や愛情を測おつてしまう人も多いようです。返信おが遅おくれたりすると、「なんですぐ返してくれなかったの?」「○○君の私への気持ちって、その程度だったの?」となるわけです。

これはじつは、非常に心が休まらない状態をおたがいおたがいに作りあつてしまつて、ことになりはしないでしょうか。

メールを出したほうは、返事おが遅おくいと不安になる。受けるほうは、即レスをしなければならぬというプレッシャーがかかっている。そしておたがい、「友だちなのだから、あるいは付き合っているのだから、毎日メールのやりとりをしなければならぬ」ということになる。

本当は幸せになるための「友だち」や「親しさ」のはずなのに、その存在が逆に自分を息苦しくしたり、相手も息苦しくなっていたりするような、妙な関係みょうなが生まれてしまうことがあるのです。

私はそれを「同調圧力Aト、ト」と呼んでいます。

「同調圧力」という言葉を私の研究室のゼミ※で使ったとき、教え子の女子学生がこう言いました。「先生、私の高校時代は、まさに『同調圧力』に悩なやまされ続けた三年間でした!」

——とにかいくつも一緒に行動していきやいけない雰囲気ふんいきがあつて、それがとても重荷おもだった。抜け出すにも抜け出せないし、距離きょりを少しでもとろうとすると「なんか冷たい」とか、「今までとちよつと違ちがう」などと言われ、いついじめの対象になるかわからない。距離をとって孤立こりつするのも怖い。そんな毎日——だったのだそうです。それが、大学に入ってかなりの程度解放されて、「人は人、自分は自分」という雰囲気が出てきたので、とても楽たのになったそうです。

「同調圧力とどう折④り合いをつけるかが私のテーマだったんだと、いまはつきりわかりました」と、彼女は長年の胸⑤のつかえがとれたように言いました。

今までもややと不快だったことが、こういうキーワードあたを与えられることでスッキリすることがあります。

この場合の彼女も、それまでは、仲間に入れてくれて、いつも誘さそってくれるグループのみんなに対して、「息苦しい、距離を置きたいと思つているのは、自分に協調性がないからなのだろうか?」「友だちだと思つてくれる彼女らに対して悪いのではないか?」「でも息苦しい、たまには一人で行動したいけど、その気持ちをうまく言えない」と、ずっと悩んでいたのでないでしょうか。

同じ年代の若者が集う同質の集団である学校という場合は、どうしても同調圧力が高まる傾向が強いようです。

自分の好みとは関係なく、みんなと同じような制服の着崩し方をしたり、今流行のバッグなどを友だちと一緒に持ったりする、またその時期に流行っている若者言葉をつい使おうとする——本当に自分で選んでそうしているというよりも、一人だけ浮いてしまうのが恐い、ノリの悪いヤツと思われるのは嫌だから、つい周りに合わせてしまうことはありませんか。

いろいろな形はあるにせよ、私たちの身の周りには、さまざまな種類の同調圧力が張り巡らされているのです。

(菅野仁『友だち幻想 人と人との(つながり)を考える』一部改変)

(注) ※ 旧約聖書……ユダヤ教およびキリスト教の聖典。

※ 贖罪……罪滅ぼし。

※ 猜疑心……人の言動をすなおに受け取らないで、何かたくらんでいるのではないかと疑う気持ち。

※ ゼミ……大学で、学生が小人数のグループをつくり、先生の指導のもとに専門的な題目について研究する授業。

問一 傍線部①「スケープゴートの理論」を説明している箇所を五十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問二 傍線部②「私も、こんな光景を見たことがあります」とありますが、このあとに続くエピソードを紹介して、筆者は何を言いたいのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ある種のグループでは、常に会話に加わっていないと、その場にはいないということと排除されてしまう不安がある、ということ。

イ ある種のグループでは、常に情報を共有していないと、そのグループが存続していけなくなってしまう不安がある、ということ。

ウ ある種のグループでは、常に関係を密にしないと、自分がいつ仲間はずれにされるかという不安がある、ということ。

エ ある種のグループでは、常に情報を共有していないと、自分だけが知らない状態になってしまう不安がある、ということ。

問三 傍線部③「最近私がちょっと気になっているのが『携帯メール』を介したコミュニケーションです」とありますが、「私がちょっと気になっている」内容の例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア A子ちゃんは友だちだからメールアドレスを交換してうれしい。
- イ B子ちゃんに「明日遊ぼうよ」とメールした。明日が楽しみだ。
- ウ C子ちゃんからメールが届いたけれど面倒くさいので返事をしない。
- エ D子ちゃんからメールが届いたので、すぐに返事を送らないといけない。

問四 傍線部④「折り合いをつける」、⑤「胸のつかえ」のここでの意味として最も適当なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

④「折り合いをつける」

- ア 相手のために思いやって譲り合うこと。
- イ 納得できるまで話し合いをすること。
- ウ うまく付き合っていく方法を見出すこと。
- エ 一方がわだかまりを捨て去ること。

⑤「胸のつかえ」

- ア 食べ物がつまった感じ。
- イ 気がかりなこと。
- ウ 怖くてためらう感じ。
- エ 重圧を受けること。

問五 二重傍線部 A 「同調圧力」について、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

生徒 この文章を読んでみて、僕もなんとなく学校で「息苦しいなあ」って、思うことがあるんです。

似たような話が文章中にありましたが、みんなが面白がっているTVゲーム、僕も試してみましたが、あまり楽しいとは思いませんでした。でも、クラスでは僕も「ハマっている」態度を取ったりしています。それから、みんなと同じように制服を着崩したりもしてみましたが、なんとなく悪いことをしているような気持ちがありました。

先生 君がそんなふうに行動するのは、文章中にあるように、クラスの中で、一人だけ浮いてしまうのが恐かったり、ノリの悪いヤツと思われたりするの嫌だったからではないのかい。

生徒 はい、そうかもしれません。

先生 筆者は、そうしたことを「同調圧力」と言っているよね。つまり「同調圧力」をまとめて言い直すと、ということだよ。

生徒 ねえ先生、学校つてところは「同調圧力」だらけなんですね。この後も息苦しさを感じながら学校に通わなければならないのかな。

先生 うん、そうとばかりは言えないのではないかな。そうならないためのヒントが、この文章の中にもあったはずだよ。

生徒 あっ、そうでしたね。僕ももう一度読み直してみます。

(1) 空欄には「同調圧力」の説明が入ります。本文や右の文を参考にして、「同調圧力」について説明しなさい。

(2) 右の会話の中で、学校は「同調圧力」が多いと語られています。どうしたら息苦しくない学校生活を送ることができるのでしょうか。本文中の言葉を使って、簡潔に答えなさい。

問題二は次のページから始まります。

高校三年生の孝子には、幼馴染で中学、高校と同じ学校に通っていた尚輝という友達^{たち}がいた。尚輝は幼いころからダンスを習い、高校三年の目前でプロのダンサーを目指して退学してしまい、その後は顔を合わせていなかった。卒業式の朝に学校の屋上で会いたいという尚輝のメールを受け取った孝子は、二人きりの屋上で尚輝と再会し、寝そべりながら高校一年生の文化祭でダンスを踊った夏のことを思い起こしている。

コンクリートが冷たくて、気持ちいい。「頭、痛くない？」そう言つて尚輝はタオルを差し出してくれた。ありがとう、と言つて目をゆつくりと開ける。まぶしい。まぶしいけれど、少しずつ目が慣れていく。風が目の前を通つていく。ふともものあたりがスースーする。

空がきれいだ。

だけど、多分、尚輝の目で見たら、もつときれいに見える。

「……あのとき、孝子がこの場所に連れてきたら、踊れるようになるかもしれないって思ったんだよな、俺」

すぐそばに尚輝の声がある。照れや、幼さや、危うさや、かつては私も抱いていたはずのすべてが溶け込んでいるその声をとりにほさないように、私は丁寧に耳を澄ます。

「なんでそう思ったの？」

「だってここ、俺の秘密の練習場所だから」

え？ と、私は尚輝を見た。風に弄ばれた黒髪が、メガネのレンズと同じ楕円形のはっきりとした視界の中を行ったり来たりした。

「事務所のレッスンがないときとか、よくここで練習してたんだ。俺だけうまくできなかったときとか、絶対にレッスン生が来ない所で思いっきり練習したくてさ。ここで練習すると、不思議とできなかった振りができるようになるんだ。夜遅くまでいても誰も来ないし、思いっきり動けるし、いい場所だよ」

そうだったの？ と私が驚いた声を出すと、そうだったのおく、と尚輝は私の声を真似した。

「だからあのときもつれてきてみたっつーか気持ちよくない？」^①「ここ」
立入り禁止なのもつたいねえよな、と、尚輝は愛しそうに目を細めて空を見た。でもやつぱりまぶしいようで、眉のあたりにてのひらを置いて影をつくっている。

この場所で文化祭のダンスの練習をした放課後。尚輝は確かその日も、この青いTシャツを着ていた。尚輝は当たり前のように私を東棟へ誘導したけれど、先生たちから立入り禁止とされている場所に私は軽々として入って行けなかった。東棟には幽霊のうわさがあつたし、学級委員の私がそんな場所

にいるのが見つかったら、クラス全体の責任にならないとか、屋上で文化祭の練習をしているなんていったら出られなくなるかもしれないとか、私はいろんなことをぐつぐつと考えていた。

それでも尚輝についていったのは、あの屋上で踊る自分を想像したら、胸がわっと熱くなったからだ。何かが変わるかもしれないという予感が、一瞬で私の足をすく上げた。

誰かがいいいややるくらいなら、と、自ら手を挙げてしまった学級委員や、緊張するとすぐ痛くなるこのお腹とか、まったく上手にならなかったピアノとか、陽子ちゃんとか、他の女の子の一言にすぐ傷ついてしまう心とか。そういうものから、解放されるかもしれないと思った。

なぜそう思ったのかはよくわからない。きっとそれだけでは何も変わらないのに、私はそう信じて疑わなかった。

尚輝の背中を見ながら、東棟の奥の奥にある細い階段を駆け上がった。胸が張り裂けそうだった。階段を一段上がるたび、^②ポケットの中にパンパンに詰まっていた何かをひとつずつ捨てていけるような、そんな気がしていた。

尚輝がさつきみたいに蹴って扉を開けたとき、私は、目の前に広がる夕空に裸で飛び込んでいける、と思った。あのときの気持ちは、今でも鮮明に覚えている。

私は、寝ころんだまま、[※]ローファアを脱ぐ。靴下にしっとりとしみ込んでいた汗が空気に触れて、す、と冷たくなる。

文化祭の準備をしていたのは、真夏だった。コンクリートが焼けて、手をつくとも熱かった。そこで全身を解き放つように踊り出した尚輝の姿は、ゆらゆらと揺れる。逃げ水の中でゆらめいていた。

スカートをもっと短くできるかもしれない、髪を染められるかもしれない、ピアノを辞めたいって言いだせるかもしれない、なんだかそういう危うい気持ち胸の中でひとつふたつと弾けた。そんな気持ちの中で、今日の前にいる尚輝は幻^{まぼろし}かもしれないと思った。^③絶対に触れることのできない逃げ水のように、このままゆらめきながら消えてしまうのかもしれない、と思った。

^A携帯を見る。太陽を背負った画面は暗く光る。卒業式が始まるまで、あと十分。

「俺がこの場所教えたの、孝子だけだよ」

そう言って、尚輝は思いっきり伸びをした。そうなんだ、と言って、私も伸びる。手足の先っぽから、ちよつとずつあの空に溶けて行ってしまいうだ。

私があんなに勇気を出してたどり着いたこの屋上に、尚輝は数えきれないくらい来ていた。ひとりで、青いTシャツを着て、音楽プレイヤーとスピーカーカードだけを持って。

^④私が見ている空はどうせ、楕円形に切り取られている。尚輝はそうじゃないんだろう。

「……本番はいろいろ無理言って、生徒会困らせちゃったよね」

「あーそうだったっけ？ でも、本番はやっぱり楽しかったな。それは覚えている。みんなすげー緊張してたけど」

俺、結構難しい振り考えたからな、と尚輝はいじわるそうに笑ったけれど、私は真剣に頷く。すごく難しかったんだからほんとに、といまさら訴えても意味がないことはわかってはいるけれど、つい訴えてしまうくらいに、私にとっては難しかった。

本番が終わると、クラスのみんなは踊れてよかったとか、あそこ間違えちゃったとか、お客さん盛り上がったとかいろいろ興奮気味に話していたけれど、私はもうその場から動けなくなってしまうんじゃないかと思っていた。

あのとときに抱いた気持ちをなんて呼べばいいのか、私は未だにわからない。

「そういえば尚輝、東棟の幽霊のうわさとか知らないの？」

幽霊のうわさ？ と、尚輝はまた **X** 返しをする。私は上半身を起こした。

「そう。夜になると幽霊が出るってうわさ。夜遅くまで学校に残ってた生徒が、不審な音を聞いたたり、人影が動いているのを見たって……」
そこまで言って私は気がついた。

「それってもしかして」

Y のことだったんじゃないの？」

馬鹿みたあああい、と大声をあげて、私はまた寝転んだ。みんな結構そのうわさに怯えてるんだよ？ と笑いながら、私は携帯の電源を切った。

(朝井リヨウ『少女は卒業しない』より「屋上は青」一部改変)

(注) ※ あのととき……高校一年生の文化祭でクラスの出し物としてダンスを踊ることになった際の、練習のときのことを指す。

※ ローファー……革靴の一種。

※ 逃げ水……強い日差しで地表が熱せられ、前方に水たまりがあるかのように見える現象。

問一 傍線部①「ここ」とありますが、尚輝は「ここ」をどのような場所だと考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幽霊が出るといいうわさが立つほどの、暗くて不気味な場所。

イ 孝子といつも一緒にいることができて何となく落ち着ける場所。

ウ 一人きりになれて思い切り練習できる自由で気持ちの良い場所。

エ 立ち入ってはならないという規則があるため、気楽に入りにくい場所。

問二 傍線部②「ポケットの中にパンパンに詰まっていた何か」として、**適当でないもの**を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人に言われたことを気にしすぎる自分の心。
- イ 屋上でダンスを踊ってみたという気持ち。
- ウ 習い事のピアノに対する気持ち。
- エ 学級委員としての責任感。

問三 傍線部③「絶対に触れることのできない逃げ水のように、このままゆらめきながら消えてしまうのかもしれない、と思った」とありますが、こ

こで孝子は尚輝のことをどのようにとらえていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 男女の差ゆえにわかりあえないものがあることに虚しさを覚えつつも、尚輝のことを本当の家族のような存在としてとらえている。
- イ 自分は尚輝のようにはなれないという劣等感を抱くとともに、自分にはないものを持っている彼をあこがれの存在としてとらえている。
- ウ 全身で激しく踊る尚輝に美しさを感じるとともに、このままでは尚輝の身に何か悪いことが起きるかもしれないととらえている。
- エ 自分とは違う世界で生きている尚輝に危うさを感じるとともに、この場所から去ってってしまうかもしれないととらえている。

問四 傍線部④「私が今見ている空はどうせ、楕円形に切り取られている。尚輝はそうじゃないだろう」とありますが、この表現から孝子は、尚輝

と自分を比べてどのように感じていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 視野が広く何ものにもとらわれない尚輝の自由奔放さに対して、決まりや制約の中で自分の気持ちのままに行動できないでいる自身の不自由さを感じている。
- イ 言葉には出さないが孝子の将来を気づかせてくれる尚輝の心の広さに対して、自分のことだけで頭がいっぱいになっている自身の心の狭さを感じている。
- ウ いつも孝子のために思って行動してくれる尚輝の大人びた態度に対して、自分のことしか考えていない自身に、子どもっぽい身勝手さを感じている。
- エ 忙しい卒業式の朝に呼び出すなど、自分勝手に振る舞うことができる尚輝の大胆さに対して、それに従ってしまった自分の従順さに情けなさを感じている。

問五 傍線部⑤「**X**返し」とありますが、傍線部が「相手が言った言葉をそのまま返す」という意味の慣用表現となるように、空欄にあてはまる動物名をカタカナで答えなさい。

問六 **Y**にあてはまる言葉を考えて答えなさい。

問七 二重傍線部**A**「携帯を見る。太陽を背負った画面は暗く光る。卒業式が始まるまで、あと十分」の時点と、**B**「私は携帯の電源を切った」の時点とで、孝子の気持ちはどのように変わったと言えますか。七十字以内で説明しなさい。

問題三は次のページから始まります。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ① 写真をカクダイする。
- ② 緑にカコまれた田園風景。
- ③ 彼は命のオンジンだ。
- ④ 旅行のヒヨウを計算する。
- ⑤ リョウヤクは口に苦し。

四

次の①～⑤の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 貨物列車が走る。
- ② いよいよ舞台の幕が上がる。
- ③ 相手の意見を否定する。
- ④ 城を築く。
- ⑤ 仏像を拜む。

五

次の①～⑤の□に漢字一字を入れ、対義語を完成させなさい。

- ① 重傷 | □ 傷
- ② 降車 | □ 車
- ③ 建前 | □ 音
- ④ 合唱 | □ 唱
- ⑤ 危険 | □ 全



宝仙学園中学校共学部 理数インター